

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 4 年 9 月調査結果 - -

(平成 1 4 年 1 0 月 2 日)

調査期間：平成 1 4 年 9 月 1 8 日～ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 4 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 8 卸売業 2 3 1
小売業 7 4 6 サービス業 6 0 3

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年9月調査結果のポイント】

業況は一進一退し、再び小幅悪化 強まる先行き不透明感

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（46.4）よりマイナス幅が1.7ポイント拡大して48.1となった。DI値の水準は、4月以降一進一退を繰り返しており、前月、縮小したマイナス幅は、再び小幅拡大となった。

業種別の業況DIを見ると、小売を除く4業種でマイナス幅が小幅拡大し、またDI値の水準は依然として低く、消費の低迷や商品単価の下落、先行き不透明感を訴える声が多数寄せられている。

【建設業】では、「依然として公共工事は少ない」（一般工事）、「民間企業の設備投資減少の為、受注減」（土木工事）等、官公需、民需とも低迷との声が多く、「公共工事、民間工事とも価格競争激化」（一般工事）と競争激化を訴える声が多い。「慢性的な仕事不足により人員の過剰が目立っている」（木造建築工事）と、雇用過剰を指摘する声や、「倒産が多発し廃業や休業する企業が出てきている」（一般工事）等、厳しい状況を訴える声が多く、先行きについても「単価の下落により、このままでは年末には倒産が増加する」（一般工事）といった悲観的な見方が寄せられている。

【製造業】では、「ここ数カ月は売上・収益とも順調に伸びていたが、今月になり低下」（特殊産業用機械）、「仕事量は昨年並みだが、単価下落で厳しい状況」（家具製造）、「競争が激しく、企業間格差が広がっている」（家具製造、プリキ缶製造、織物外衣製造）と、受注の減少や、競争激化による採算の悪化を訴える声が多い。また、「好材料が見当たらず、10月以降受注減が予想される」（織物外衣製造）と、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。さらに、先月に続き「原材料の漁獲量が少なく、価格が高騰しても製品に転嫁できない」（水産食料品製造）との水産関連からの声や、その他の業種でも「原材料値上げの影響が収益悪化要因となる」（プラスチック、暖房装置・配管）、「原紙値上げの動き」（加工紙製造）と、仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「消費低迷により売上減少が続いている」（衣服・日用品卸）と、引き続き消費低迷と、「輸入品の商品単価が引き続き下落し、売上額は縮小」（衣服・日用品卸）、「価格競争が一段と厳しく、先行き不安」（農畜産水産物卸、各種商品卸）、「単価が安いものは数量でカバーしている」（農畜産水産物卸）といった輸入品の影響と、競争激化による単価の下落を訴える声が多い。また、「仕入れ価格が値上がりしたが、販売価格の値下げ要求が厳しく収益悪化」（各種商品卸、建築材料卸）と、仕入れコストの上昇を指摘する声も寄せられている。

【小売業】では、「今月後半から気温低下とともに、衣類、鍋物食材等が動き出している」（百貨店、商店街）、「売上は前年と変わらず、明るい兆し」（百貨店）との声の一部にあるものの、「入店客数と売上との乖離が大きい」（百貨店）等、依然として消費の低迷、客単価が下落との声が多い。また、「業況悪く資金繰り悪化」（百貨店、商店街）、「廃業が増えており、借入金があるので、やめたくてもやめられない店舗も多い」（商店街）といった深刻な状況を訴える声や、「株安が続くと特選衣料雑貨や宝石貴金属、美術品等の高額品への影響が懸念される」（百貨店）、「株式・金融等の不安材料が個人消費のマイナス要因」（百貨店）と、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。

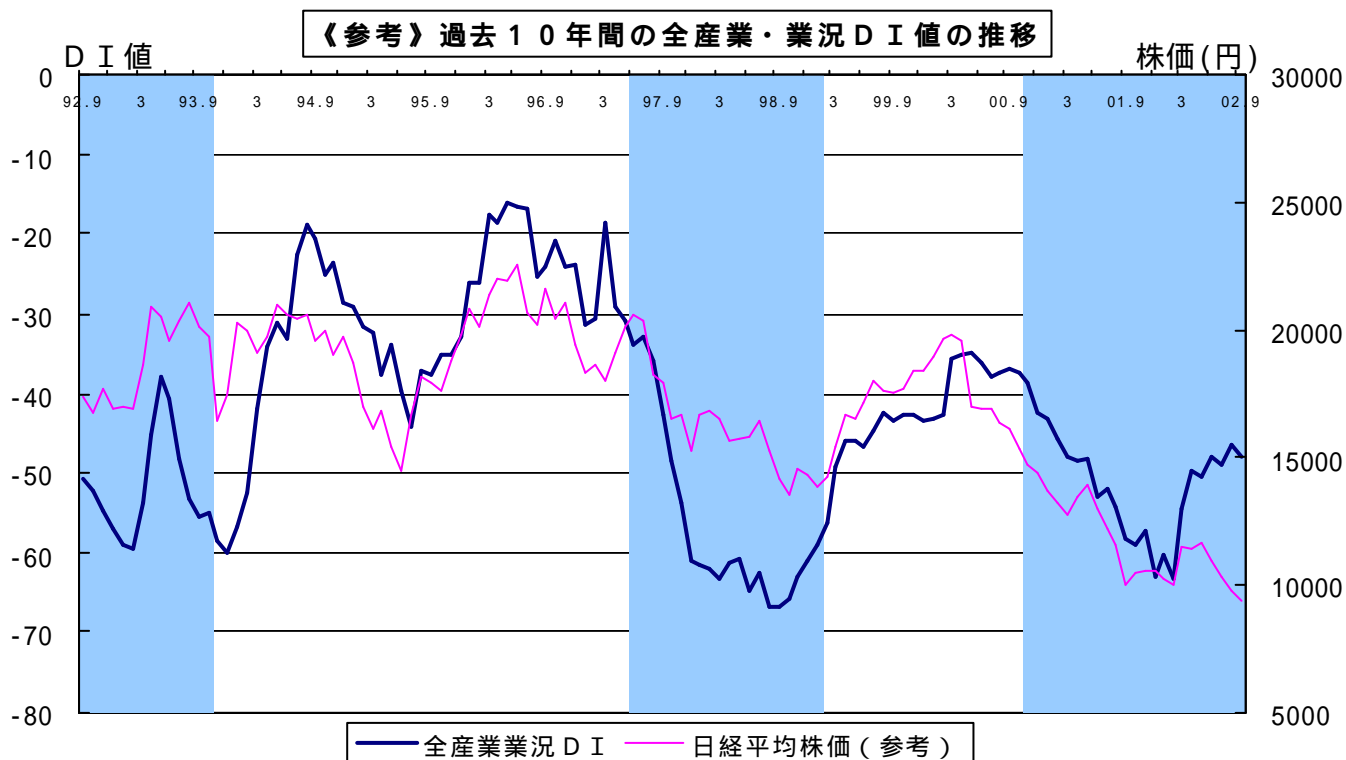
【サービス業】では、「安値志向の競争に追い込まれる旅館・ホテルがますます増加」（旅館）「競争激化により採算悪化」（各種物品賃貸）等、競争激化、客単価の下落を訴える声が多く寄せられている。また、「観光客数は前年より回復したが、客単価下落で採算悪化」（旅館）「低価格志向が日常化し、株価の低迷等が消費マインドをさらに萎縮させるのではないか」（飲食店・バー等）と、消費の低迷、先行き不透明感を指摘する声も多い。その他、「8月の猛暑で売上が伸びた分、今月は落ち込んでいる」（理容）との声や、「食品不祥事の影響がまだ続いている」（一般飲食店、すし店）とのコメントも寄せられている。

売上面では、前月水準と比較して、全産業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が2.8ポイント拡大して41.9となり、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

採算面でも、建設、小売でマイナス幅が縮小したものの、残りの3業種ではマイナス幅が拡大し、全産業合計の採算DIは1.5ポイント拡大して44.5と、業況および売上DIとともに、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が37.9と、昨年同時期の先行き見通し(50.1)と比べて上向いているものの、前月水準(36.6)よりもマイナス幅が1.3ポイント拡大している。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の削減や消費不振、資金繰り悪化による先行き不安感、仕入れコストの上昇に関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（46.4）よりマイナス幅が1.7ポイント拡大して48.1となった。DI値の水準は、4月以降一進一退を繰り返しており、前月、縮小したマイナス幅は、再び小幅拡大となった。

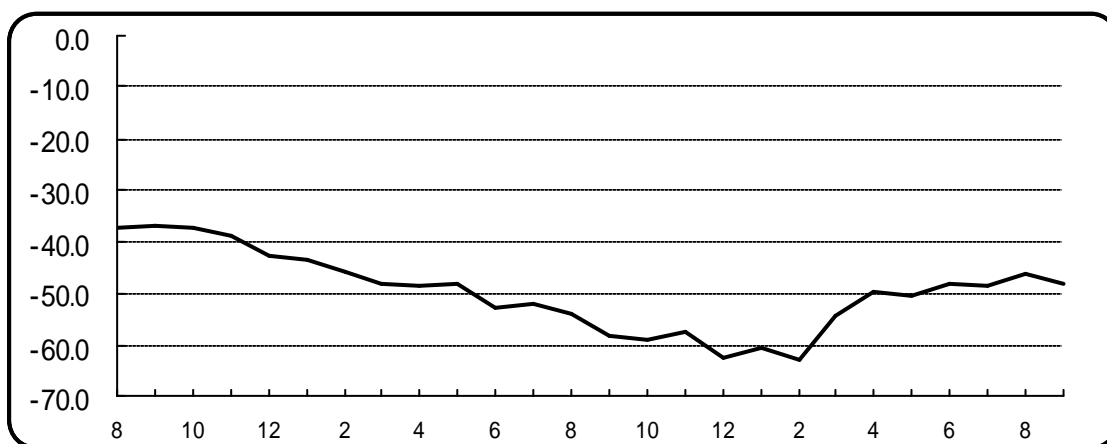
向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が37.9と、昨年同時期の先行き見通し（50.1）と比べて上向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	49.7	50.4	48.1	48.9	46.4	48.1	37.9 (50.1)
建設	67.7	66.7	61.6	57.1	55.7	56.8	53.2 (59.3)
製造	53.6	53.8	48.5	47.6	44.8	49.2	34.2 (51.2)
卸売	58.4	58.1	52.1	48.7	46.6	50.6	35.0 (47.6)
小売	41.9	42.7	41.1	49.1	45.0	42.3	34.8 (46.8)
サービス	39.2	41.8	45.8	44.5	43.4	47.2	37.0 (47.5)

先行き見通しは当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年8月の先行き見通しDI（以下同じ）

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

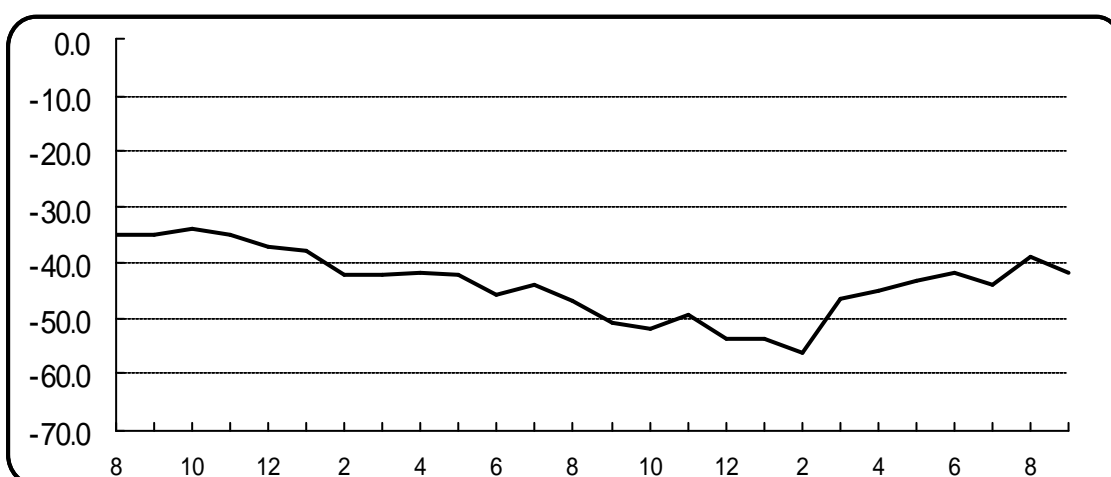
売上面では、前月水準と比較して、全産業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が2.8ポイント拡大して41.9となり、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が30.2と、昨年同時期の先行き見通し（41.9）に比べて上向いている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	45.2	43.2	42.0	44.0	39.1	41.9	30.2 (41.9)
建設	60.6	60.7	56.5	48.7	45.7	47.0	45.6 (54.2)
製造	48.6	47.7	40.0	41.6	37.6	42.8	28.8 (44.6)
卸売	56.5	45.6	45.6	45.5	39.8	48.1	24.4 (37.4)
小売	40.4	37.1	38.7	45.3	39.4	40.2	26.1 (37.8)
サービス	32.4	32.5	37.0	41.3	35.7	37.3	29.1 (37.0)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

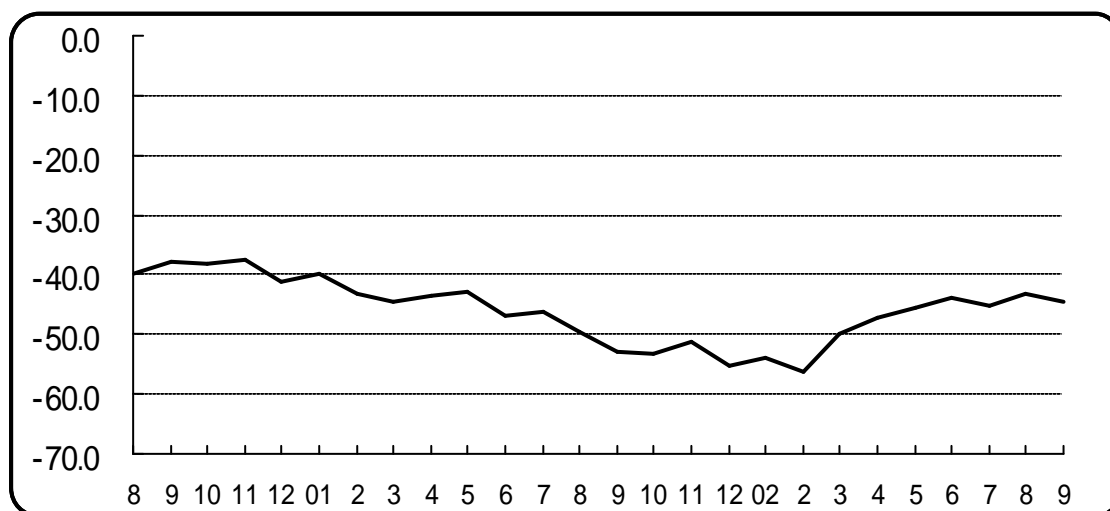
採算面でも、建設、小売でマイナス幅が縮小したものの、残りの3業種ではマイナス幅が拡大し、全産業合計の採算D Iは1.5ポイント拡大して44.5と、業況および売上D Iとともに、2カ月振りにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(10月~12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が33.3で、昨年同時期の先行き見通し(43.2)と比べて上向いている。

採算D I (前年同月比) の推移

	14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	47.0	45.7	43.9	45.2	43.0	44.5	33.3 (43.2)
建設	61.6	62.1	60.5	56.6	59.6	56.8	52.5 (59.7)
製造	55.8	51.6	44.8	46.1	44.9	45.9	32.2 (46.0)
卸売	54.0	47.5	42.0	43.1	40.4	48.1	28.1 (36.7)
小売	36.0	36.3	37.0	42.0	36.3	35.5	25.1 (35.9)
サービス	38.4	38.9	41.2	41.3	38.7	44.3	34.1 (40.1)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	37.9	36.3	34.5	33.8	32.8	34.7	29.7 (35.2)
建設	50.9	46.7	44.8	44.9	44.5	48.5	47.4 (46.5)
製造	48.2	43.3	41.6	41.4	37.7	38.2	29.5 (38.1)
卸売	37.1	33.3	30.7	29.6	24.8	26.7	23.6 (29.4)
小売	25.1	25.3	24.4	24.9	25.3	28.9	25.4 (30.5)
サービス	30.0	33.4	30.7	26.8	29.4	30.3	26.1 (31.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で悪化超感が強まったことから、全産業合計のD Iも7カ月振りに悪化超感が若干強まる。

【先行き見通しD I】建設で、昨年同時期に比べ悪化超感若干強まるが、他の4業種は悪化超感が弱まり、全産業でも悪化超感弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	0.9	1.0	0.7	0.1	0.4	0.7	2.7 (0.9)
建設	1.8	1.1	1.8	0.0	1.8	3.4	2.7 (1.8)
製造	5.5	5.9	4.9	7.3	5.9	8.6	10.4 (4.9)
卸売	9.4	8.2	4.8	1.9	8.8	5.7	1.3 (5.5)
小売	8.3	8.4	8.3	8.4	3.1	9.1	6.0 (4.5)
サービス	3.0	3.5	5.2	3.0	3.8	3.3	6.5 (5.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売で下落超感が弱まったが、全産業では3カ月振りに下落超過となった。

【先行き見通しD I】小売を除く4業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	17.6	17.2	15.6	15.0	14.9	14.2	14.5 (16.1)
建設	35.3	36.8	36.7	32.0	33.8	33.1	33.5 (27.7)
製造	26.4	23.2	21.8	22.8	21.8	20.5	18.4 (24.5)
卸売	21.1	20.6	16.0	14.9	16.8	16.3	12.9 (17.0)
小売	6.8	6.4	3.7	4.3	4.9	3.8	3.6 (7.4)
サービス	7.7	8.9	8.9	7.5	5.8	6.7	11.2 (8.9)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】サービスを除く 4 業種で過剰超感が弱まり、全産業でも過剰超感わずかに弱まる。

【先行き見通し D I】建設、サービスを除く 3 業種で、昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業でも弱まる見通し。

【平成14年9月の景気キーワード】

先行き不透明感

今月も、業種を問わず景気の先行き不透明感を指摘する声が多く寄せられている。建設業からは、「受注単価が前年より10%下落し、年末には倒産する業者が多数出るとの不安感が高まっている」(堺・一般工事)、製造業からは、「売上が極端に落ち込むことは現在ないが、受注状況からして今後の売上上昇は考えにくい」(延岡・建設建築用金属)、「売上、採算とも低調で、受注があっても値引き要求が強く採算割れになり、今後も厳しい見通し」(赤穂・金属加工機械)、「新規案件全く無く、補修関係の仕事で何とかやり繰りしている状況」(西宮・建設建築用金属)などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「秋の行楽シーズンとなるのに動きが悪い」(清水・農畜産水産物卸)、「宿泊予約状況は厳しい」(富士、赤穂・旅館)といった、秋の行楽シーズンへの不安の声や、「株安が続くと特選衣料雑貨や宝石貴金属、美術品等の高額品への影響が懸念される」(京都・百貨店)、「株式・金融等の不安材料が個人の消費マインドをさらに萎縮させるのではないか」(鹿沼・百貨店、静岡・飲食店、バー等)との声が寄せられている。

「景気回復感」なし

景況について、「公共工事・民間設備投資とも、依然として状況は厳しく、好転する兆しはない。」(赤穂・一般工事)、「一部の企業は若干受注増だが、全体では依然として厳しい状況」(高崎・自動車付属品製造)、「大変悪いという感じから、依然として悪いという感じになってきたが、相変わらず厳しい」(松阪・製材木製品製造)と、回復感なしとのコメントが多く寄せられている。また、「消費者の購買意欲は低く、低迷が続くものと判断される」(草津・各種商品小売)、「目立った動きもなく、依然厳しい状況」(川崎・食堂、レストラン)、「不況感は依然続いている」(岩国・理容)と消費の低迷を訴える声が多い。

資金繰り悪化

「組合の調査では、45.5%が資金繰り悪化と回答」(清水・木造建築工事)、「都市銀行の一部から金利引き上げの提案があり、都銀から地銀へシフトせざるを得ない状況」(北九州・電気工事)、「受取手形の不渡り事故が多く、貸し渋り・貸し剥がしが背景と思われる」(館山・金属製品製造)、「金融機関の選別融資の影響を受けている企業が見られる」(岡山・衣服、日用品卸)、「長引く不況で資金繰りが悪化」(大川・商店街)と、長期の不況と金融機関の選別融資、金利引き上げ等の動きにより、資金繰りが悪化しているとの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 7月	先行き不透明感	仕入れコスト上昇	天候不順
8月	先行き不透明感	猛暑・天候不順	食品表示問題
9月	先行き不透明感	「景気回復感」なし	資金繰り悪化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>5月以降、マイナス幅が縮小しできた業況D Iは、5カ月振りに拡大。売上D Iも拡大したが、採算D Iは縮小した。「依然として公共工事は少ない」(一般工事)、「民間企業の設備投資減少の為、受注減」(土木工事)等、官公需、民需とも低迷との声が多く、「公共工事、民間工事とも価格競争激化」(一般工事)と競争激化を訴える声が多い。「慢性的な仕事不足により人員の過剰が目立っている」(木造建築工事)と、雇用過剰を指摘する声や、「倒産が多発し、廃業や休業する企業が出てきている」(一般工事)等、厳しい状況を訴える声が多く、先行きについても「単価の下落により、このままでは年末には倒産が増加する」(一般工事)といった悲観的な見方が寄せられている。</p>
製 造	<p>前月まで3カ月連続で縮小した業況D Iのマイナス幅は拡大。売上、採算D Iも拡大した。「ここ数カ月は売上・収益とも順調に伸びていたが、今月になり低下」(特殊産業用機械)、「仕事量は昨年並みだが、単価下落で厳しい状況」(家具製造)、「競争が激しく、企業間格差が広がっている」(家具製造、ブリキ缶製造、織物外衣製造)と、受注の減少や、競争激化による採算の悪化を訴える声が多い。また、「好材料が見当たらず、10月以降受注減が予想される」(織物外衣製造)と、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。さらに、先月に続き「原材料の漁獲量が少なく、価格が高騰しても製品に転嫁できない」(水産食料品製造)との水産関連からの声や、その他の業種でも「原材料値上げの影響が収益悪化要因となる」(プラスチック、暖房装置・配管)、「原紙値上げの動き」(加工紙製造)と、仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>前月まで6カ月連続で縮小した業況D Iのマイナス幅は拡大。売上、採算D Iも拡大した。「消費低迷により売上減少が続いている」(衣服・日用品卸)と、引き続き消費低迷と、「輸入品の商品単価が引き続き下落し、売上額は縮小」(衣服・日用品卸)、「価格競争が一段と厳しく、先行き不安」(農畜産水産物卸、各種商品卸)、「単価が安いものは数量でカバーしている」(農畜産水産物卸)といった輸入品の影響と、競争激化による単価の下落を訴える声が多い。また、「仕入れ価格が値上がりしたが、販売価格の値下げ要求が厳しく収益悪化」(各種商品卸、建築材料卸)と、仕入れコストの上昇を指摘する声も寄せられている。</p>
小 売	<p>2カ月連続で業況D Iのマイナス幅は縮小。売上D Iは若干拡大、採算D Iは若干縮小した。「今月後半から気温低下とともに、衣類、鍋物食材等が動き出している」(百貨店、商店街)、「売上は前年と変わらず、明るい兆し」(百貨店)との声の一部にあるものの、「入店客数と売上との乖離が大きい」(百貨店)等、依然として消費の低迷、客単価が下落との声が多い。また、「業況悪く資金繰り悪化」(百貨店、商店街)、「廃業が増えており、借入金があるので、やめたくてもやめられない店舗も多い」(商店街)といった深刻な状況を訴える声や、「株安が続くと特選衣料雑貨や宝石貴金属、美術品等の高額品への影響が懸念される」(百貨店)、「株式・金融等の不安材料が個人消費のマイナス要因」(百貨店)と、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。</p>
サービス	<p>前月まで2カ月連続で縮小した業況D Iのマイナス幅は拡大し、売上、採算D Iも拡大した。「安値志向の競争に追い込まれる旅館・ホテルがますます増加」(旅館)、「競争激化により採算悪化」(各種物品賃貸)等、競争激化、客単価の下落を訴える声が多く寄せられている。また、「観光客数は前年より回復したが、客単価下落で採算悪化」(旅館)、「低価格志向が日常化し、株価の低迷等が消費マインドをさらに萎縮させるのではないか」(飲食店・バー等)と、消費の低迷、先行き不透明感を指摘する声も多い。その他、「8月の猛暑で売上が伸びた分、今月は落ち込んでいる」(理容)との声や、「食品不祥事の影響がまだ続いている」(一般飲食店、すし店)とのコメントも寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準で推移し、北海道、近畿、四国、九州を除く5ブロックでは前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。

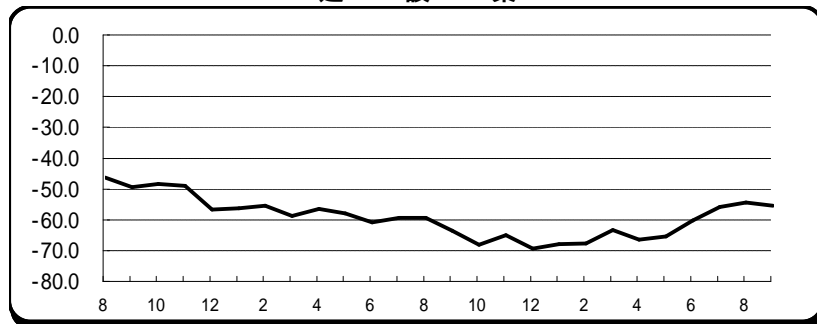
ブロック別の向こう3カ月（10月～12月）の業況の先行き見通しは、全ブロック合計では、引き続きマイナス水準。しかしながら、全ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べマイナス幅が縮小しており、上向いている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

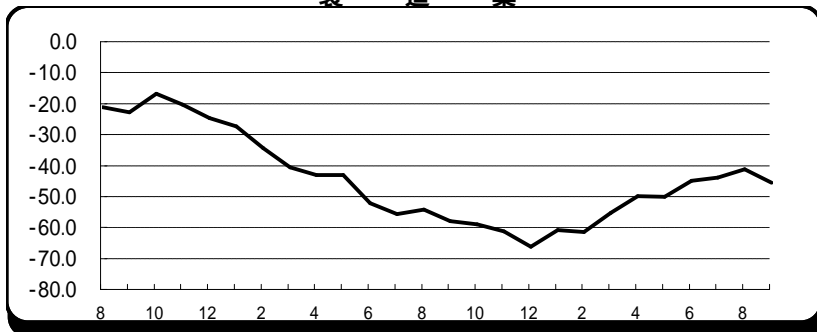
	14年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全 国	49.7	50.4	48.1	48.9	46.4	48.1	37.9 (50.1)
北海道	41.8	43.3	40.8	43.3	45.4	40.3	36.3 (45.6)
東 北	59.2	55.3	51.8	55.3	50.3	51.5	49.7 (57.5)
北陸信越	50.0	52.8	46.0	40.1	38.5	44.3	36.6 (45.4)
関 東	44.5	44.9	50.1	43.5	42.6	46.1	32.1 (44.4)
東 海	48.9	43.7	43.1	52.8	43.2	49.7	41.2 (54.4)
近 畿	54.9	61.9	53.0	52.9	55.1	52.6	42.3 (57.7)
中 国	58.1	57.0	51.4	55.2	44.4	48.1	39.7 (51.7)
四 国	53.9	57.3	52.6	58.7	56.3	55.4	39.3 (48.1)
九 州	42.7	42.6	40.0	48.9	46.2	45.7	31.4 (49.4)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

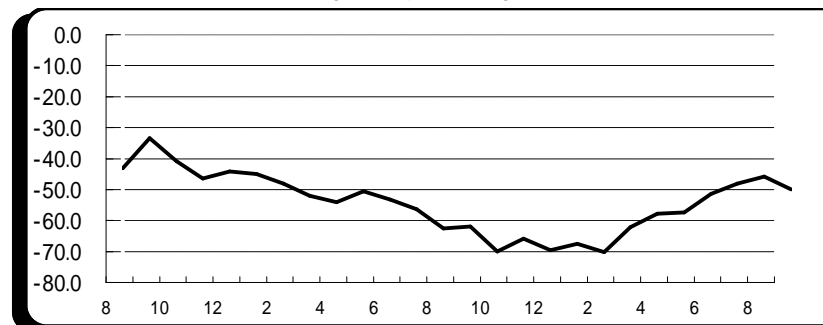
建設業



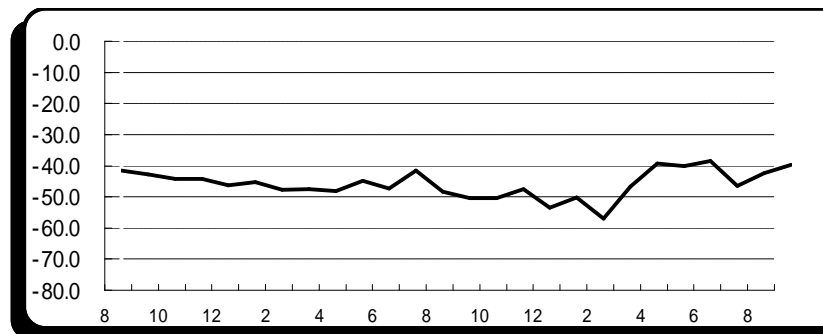
製造業



卸売業



小売業



サービス業

